

定 例 教 育 委 員 会 次 第

令和6年1月31日（水曜日）
10時00分～

1 開 会

2 前回議事録の承認

3 事務局報告（公開）

（1）令和5年11月定例県議会における主な質問事項について

（教育総務課）

（2）第31回全国中学校駅伝大会（結果）について

（保健体育課）

（3）男子74回・女子35回全国高等学校駅伝競走大会（結果）について

（保健体育課）

（4）第103回全国高等学校ラグビーフットボール大会（結果）について

（保健体育課）

（5）次回定例教育委員会について

令和6年2月13日（火）14時00分～

（教育総務課）

4 議事（非公開）

付議第39号議案

令和6年度佐賀県立学校教職員配当基準（案）について

（教職員課）

付議第40号議案

令和6年度佐賀県市町立学校県費負担教職員配当基準（案）について

（教職員課）

付議第41号議案

いじめ重大事態の調査報告書を踏まえた教育委員会の対応について

（生徒支援室）

付議第 42 号議案

令和 5 年度佐賀県教育委員会表彰の被表彰者について

(学校教育課)

付議第 43 号議案

教職員の人事について

(教職員課)

5 事務局報告 (非公開)

(1) 第 32 回児童生徒に対する教育長表彰について

(学校教育課)

(2) 第 44 回善行児童生徒表彰について

(学校教育課)

(3) 第 36 回全国産業教育フェア佐賀大会について

(学校教育課)

定例教育委員会議事録（案）

- 1 期 日 令和5年12月20日（水曜日）
- 2 場 所 教育委員会室
- 3 参集者 牟田委員、飯盛（清）委員、飯盛（裕）委員、荒木委員、嘉村副教育長、大橋危機管理・広報総括監、松尾総体2024総括監、内田教育総務課長、近藤特別支援教育室長、岡教職員課長、原岡学校教育課長、池田生徒支援室長、江口保健体育課長 ほか

4 会議次第 別紙のとおり

5 会議の経過

(1) 開 会 14時00分

甲斐教育長は、公務の都合により、急きょ欠席のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第2項の規定により、教育長の職務代理者である私が主宰する。

(2) 前回議事録の承認

このことについて、牟田委員は会議に諮り、委員会は承認した。

(3) 議事

【付第36号議案】

令和6年度佐賀県立特別支援学校幼稚部、高等部及び専攻科の募集定員について

このことについて、議案書により近藤特別支援教育室長が次のとおり説明し、委員会は協議の結果、議案のとおり決定した。

(近藤特別支援教育室長)

資料36-2をご覧ください。こちらは令和6年度の幼稚部、高等部、専攻科の募集定員を一覧にしたものである。

特別支援学校の高等部及び専攻科の募集定員の策定にあたっては、9月下旬に県内の公立中学校及び県立特別支援学校を対象に行った進路希望調査を基礎とし、中学校から提出があった入学志願許可願書により精査を行った。県立特別支援学校においては、志願見込者の全てが志願したものとしても合格できるように募集定員を定めていくという考え方である。今後、県外からの転入など今後志願者が増える場合も対応できるよう余裕を持って策定している。この結果、令和6年度の募集定員については、幼稚部は若干名、高等部361名、専攻科は8名となる。

資料36-3をご覧ください。こちらには募集定員の基礎となる志願見込数の令和5・6年度の数を学校別に記載している。資料36-4をご覧ください。令和6年度の高等部の志願見込者数の合計は、191人となっており、昨年度は231人であったため、40人の減となっている。募集学級数については、62学級であり、昨年度と比

較して、11 学級の減、募集定員数については、361 人であり、昨年度と比較し 43 人の減となっている。なお、高等部の志願見込者数の中には、先の進路希望調査で、高等学校を第 1 希望、特別支援学校を第 2 希望としている生徒が含まれており、例年最終的な入学者数は志願見込者数の 80%程度で推移している。また、令和 6 年度の高等部の第 1 学年の学級数については、合格者が入学した段階で確定するため、今回の募集定員で学級数が確定するものではない。

また、盲学校の専攻科についても、同様の考え方で設定しており、表のと通りの募集定員となっている。盲学校・ろう学校の幼稚部の募集定員についても表のと通りの募集定員となっている。専攻科と幼稚部については昨年度と中身と変わりはない。承認をいただいたら、関係機関に周知をしていく。以上、ご審議をお願いしたい。

【主な質問等】

(飯盛(清) 委員)

すべての子どもたちが学べる環境を整えることはとても大切なことであると考え。今までに希望をしたが、入学を断った事例はあったか。

(近藤特別支援教育室長)

まず、県教育委員会が主催で高等部入学希望者の入学資格の検討会を行い、志願の可否を審査している。その中で、知的障害を希望されているが I Q がかなり高い方、日常生活に特に支援を必要としない方が志願されている場合は、希望された中学校に出向き説明をして対応することもあり、すべての志願者が入学しているということではない。

(飯盛(裕) 委員)

現在ろう学校に 2 名が在籍されているが幼稚部の来年度の志願者は 0 名である。0 名であれば、働く職員も配置されないということか。先生がいる学年もあればいない学年もあるのか。

(近藤特別支援教育室長)

そうである。

(加藤委員)

盲学校、ろう学校の志願見込者数について、聴覚障害者サポートセンターなど関係機関から見込者数を調査しているのか。

(近藤特別支援教育室長)

見込者数調査については、すべて特別支援学校や中学校を經由しており、支援機関は含まれていない。

(加藤委員)

現在は、聴覚も視覚も機械が発達し、健常者と一緒に学べるような取組がされていると思う。これから志願者が減っていくのではないか。融合した形でできれば良いのでは。

(近藤特別支援教育室長)

盲学校・ろう学校は志願者が少ない状況である。例年、盲学校では学会や幼稚園を職員が手分けして回り、学校の周知活動を行っている。特別支援学級で、弱視や難聴の方が入学されている場合もあるため、そこから志願されることもある。

(加藤委員)

受験したら合格するのか。

(近藤特別支援教育室長)

志願に適されて、希望があれば受け入れるだけの募集定員を定めている。

(飯盛(清)委員)

盲学校を訪問した際に、学校名が壁になっていることがあると校長先生がおっしゃっていたが、話は進んでいるか。

(近藤特別支援教育室長)

盲学校の生徒の中で全盲の方は一部で、弱視の方が非常に多いという実態があり、そういう希望が出てきたのかと思う。平成19年度に養護学校から特別支援学校に移行した際に、学校名についての検討があったと聞いているが盲学校という名前を残している。保護者の意向などもあることから、今後学校とも連携を取りながらどうあるべきかについて関心を持っておきたい。

(4) 事務局報告

- ① 松尾総体2024総括監は、令和6年度全国高等学校総合体育大会(SAGAインターハイ)の準備状況について、資料に基づき次のとおり報告した。

(松尾総体2024総括監)

資料1-1をご覧ください。来年度開催される全国高等学校総合体育大会(SAGAインターハイ)の準備状況についてお知らせする。まず(1)広報について、県庁舎に懸垂幕を設置している。元々懸垂幕を垂らす場所が2つしかなかったが、3つに増設して、SAGAインターハイの懸垂幕も常設している。各競技会場に横断幕の設置やポスター等を掲示している。広報ではSAGA2024に押されているが、やり方を工夫しながら周知をしていきたい。(2)高校生活動については、インターハイの主役は高校生、支えるのも高校生ということで、今回のインターハイは特に高校生が自分たちで自ら考えてやることをコンセプトにしている。秋にはイベントが復活してきたため、吉野ヶ里ふるさと炎まつりや佐賀インターナショナルバルーンフェスタなどに高校生が出向き、広報活動を行った。お手元にチラシを配布している。このチラシのデザインも高校生が行っている。今週12月23日(土)に佐賀駅前交流広場で高校生が企画したイベントを開催する。催し物や学校独特の販売、キッチンカー等も予定している。ぜひ顔を出していただきたい。

資料1-2をご覧ください。(3)競技開催、(4)宿泊・衛生、交通・防災については肅々と準備を進めているが、宿泊についてかなり苦戦をしている。佐賀県は全国の中でも宿泊施設数がほぼ最下位である。コロナ禍の影響でスタッフが減り、キャパの全部を提供できなくなっている。稼働率が90%以上の所も多いが、それは全体

を分母にした稼働率ではなく、提供できる数の中の90%であり、かなり厳しい状況である。インターハイで提供していただく宿泊関係については苦戦をしているため、宿泊料金の値上げについて高体連に陳情しているところである。(5) SAGA2024 との連携については、合同で学校訪問をしている。SAGA2024 の競技運営は市町が行うため、インターハイと同じ競技を行う佐賀市や嬉野市と協働して行っている。また宿舎等の立入検査もあるが、インターハイとSAGA2024 で一本化して実施する予定である。最後に、インターハイもあり、SAGA2024 もあり、高校生は大変ではあるが、活躍の場が増えるということでもある。一般的な業務を担う運営役員及び運営補助員については、県立・私立に問わず会場の近くの高校からお願いしている。競技がサンライズパークに集中しているため、佐賀市内の県立・私立高校はすべて何らかのサポート校になっている。専門的な業務を行う競技役員・競技補助員については、全県下からその部活の顧問及び生徒を集めている。中には高校では足りないため、小学校・中学校の先生にお願いする、県内にいないため県外にお願いするというパターンもある。

【主な質問等】

(飯盛(清) 委員)

宿泊に関して話題提供になるが、全障スポの対応かと思うが、全盲の柳川さんと、車椅子の方が武雄市のビジネスホテルに行き、実際に動いてみて、足りない部分などがないかを見て回ったという話を聞いた。国スポ・全障スポが終わった後に宿泊施設の受け入れがあると思う。

(飯盛(裕) 委員)

宿泊施設が足りないと聞き思い出したのだが、災害時に江北町で、トレーラーで移動ができる宿泊施設があったと思うが、そういったものは高いのか。

(松尾総体 2024 総括監)

過去にも、海が近い場所では、海の上に豪華客船を停めて、船で渡して泊めさせるというようなアイデアもあったが、旅館業の資格・許可などを持っているかなども関係してくる。簡易宿所と言われる少年自然の家やロッジなどもあるが、コンディションに差が出てしまう問題もあることから、基本として今営業をしているホテルや旅館をあたっている。エントリーをしている部員以外がそういったところに宿泊することはあるかもしれない。

(飯盛(裕) 委員)

国スポの会議でも、宿泊とバスが全く足りないという話も聞いたため、何か手があれば良いと思う。

(松尾総体 2024 総括監)

インターハイの宿泊は協賛社であるJTBがコントロールをしているため、現在、JTBの担当者がホテル・旅館を一軒ずつ回って宿泊提供を依頼しているところである。

(加藤委員)

全障スポの選手・団体をボランティアで家庭が受け入れることを申し出たら断られたという話を聞いたが、きちんとした宿泊施設でないとコンディションの面があるため断られたのは真つ当であると思った。

(松尾総体 2024 総括監)

国体などでは、一般の民家などに宿泊する民泊の制度があるが、同じ競技で、あるチームはホテルに宿泊し、あるチームは民泊に泊まるとなると条件が不公平になるため、民泊をするのであればその競技全部を民泊にしないといけなくなり、そのキャパの確保が難しいと聞いている。愛媛国体の時に、ある競技の少年男子全員を民泊で受け入れたケースはあった。O - 157 以降は衛生基準が厳しくなり、調理する人はトイレを別にしないといけない、受け入れ家族全員の検便を提出しないといけないなど、受け入れ側もかなり厳しくなっている。インターハイは夏場でもあるため衛生面でも気を遣うという話を聞いている。

(牟田委員)

泊まれない人も出てくるのか。

(松尾総体 2024 総括監)

泊まれないということはないが、遠方になる可能性はある。2年前の四国総体では、徳島県で開催される競技が兵庫県に宿泊し、毎日明石大橋を渡って会場に向かったということもあった。

(飯盛(裕)委員)

昔、水泳の九州ブロック合宿に参加した時に鹿屋自衛隊基地に宿泊もしていたが、自衛隊に要請はできないのか。

(牟田委員)

民泊同様、宿泊したチームからなせうちだけということになるかもしれない。

- ② 内田教育総務課長は、決算特別委員会（令和4年度決算）における主な質問事項について、資料に基づき次のとおり報告した。

(内田教育総務課長)

資料2-1をご覧ください。11月6日から11月17日までの12日間にて開催された。教育関係については4件の質疑がなされた。教育関係議案については原案どおり認定をされた。

【主な質問等】

(飯盛(清)委員)

彩志学舎中学校の出願状況はどうか。すでに募集は始まっているのか。

(内田教育総務課長) ※振興課に確認し回答

申込期間は11月1日から1月31日までとなっている。12月19日現在で、提出者が7名、うち外国籍の方が3名である。年齢構成としては、10代が3名、20

代が1名、50代が2名、60代が1名である。入学を希望する理由として、学習内容を学び直したいという方も一定いらっしゃる。

(飯盛(裕)委員)

説明会に参加したが、年配の方が前に座って、熱心に質問をされていた。

③ 岡教職員課長は、令和5年度教育行政職員採用試験の結果について、資料に基づき次のとおり報告した。

(岡教職員課長)

資料3-1をご覧ください。8月定例教育委員会では、特別枠・スポーツ特別枠と大学卒業程度の試験結果を報告したが、今回は、11月15日に高校卒業程度、11月27日に民間企業等職務経験者(社会人経験枠)の合格発表をしたため結果について報告する。

高校卒業程度については、1名の採用予定者数に対して10名が一次試験を受験され、最終合格者数も採用予定者数と同じ1名となっている。

また民間企業等職務経験者については、このうち社会人経験枠の採用試験を令和元年度から実施しており、民間企業等で培った経験を学校経営の中で発揮し、学校教育の発展に貢献していただく人材の確保を行っていくこととしている。受験上限年齢は昨年度よりも1歳引き上げられ52歳までとなっている。3名の採用予定者数に対して64名が一次試験を受験され、最終合格者数も、採用予定者数と同じ3名となっている。

このほか、障害者を対象とした選考試験を2回実施したが、最終合格者はいなかった。3回目の予定はない。教育行政職員の今年度の採用試験はこれで終了となり、各受験区分で合計14名の合格者を出している。現時点で1名の辞退申し出があっているため、来年度の4月採用は13名となる見込みである。来年度以降も優秀な人材を多様な試験で確保していきたいと考えている。

【主な質問等】

(飯盛(裕)委員)

年齢が52歳まで引き上げられたということだが、平均年齢や最年少・最年長の年齢などはどうか。また、辞退が出ているということだが、繰り上げ合格などはないのか。

(岡教職員課長)

各年代にいるが、最年少・最年長の年齢は把握していない。また、繰り上げ合格はない。

(荒木委員)

障害者の採用がなかったというのは、申込者がいなかったということか。

(岡教職員課長)

申込者はいたが、合格に至った方がいなかった。

(荒木委員)

障害者の雇用をこれから増やしていかないといけないと言われていると思うが、それでも合格できなかったのか。それとも、教育行政の現場で障害者が働ける環境にないということが関係しているのか。

(岡教職員課長)

できる限り採用したいと思い、2回目実施したが、合格に至る方がいなかった。

(荒木委員)

試験はどういう試験か。

(岡教職員課長)

面接試験を実施している。

- ④ 岡教職員課長は、令和6年度佐賀県立学校理療科教諭等、寄宿舎指導員及び実習助手採用選考試験の結果について、資料に基づき次のとおり報告した。

(岡教職員課長)

資料4-1をご覧ください。これについては、12月8日に合格発表を行ったものであり、その選考試験の結果について概要をお知らせする。

試験の実施状況について、11月4日に教育センターで試験を実施した。試験の内容は、理療科教諭については小論文試験と面接、寄宿舎指導員・実習助手については一般・教職教養試験、専門試験、小論文試験、面接試験を実施した。

合格者数の表に示しているとおおり、今回の申込者数は、理療科教諭については2名であった。寄宿舎指導員が23名、実習助手が28名、計51名の申込者であった。昨年度と比較し、14名減となっている。試験当日に1名が欠席し、受験者数は50名であった。合格者数は理療科教諭が2名、寄宿舎指導員5名、実習助手が理科家庭1名、農業3名、工業の機械が3名、建設系が3名という結果となった。合格者数の年齢については、年代別に見ると理療科教諭は40代が1名、20代が1名であった。寄宿舎指導員・実習助手は40代が3名、30代が3名、20代が9名であった。いずれも現在学校で臨時的任用として勤務している方の合格率が高かった。少子化の影響による学級数の減少や定年引上げ等もあり、今後の退職者数等の推移を見越しながら計画的に採用を行っていきたいと考えている。

- ⑤ 岡教職員課長は、令和6年度佐賀公立学校教員採用選考試験（秋選考）の結果について、資料に基づき次のとおり報告した。

(岡教職員課長)

資料5-1をご覧ください。令和6年度佐賀公立学校教員採用選考試験（秋選考）については、11月18・19日の2日間、佐賀工業高校で実施した。63名が受験申込を受け付けたが、実際の受験者は53名であった。そのうち25名を合格者として合格発表を行った。

資料5-2をご覧ください。今回の特徴については、秋選考合格者のうち既卒

者が 22 名、来年卒業予定の新卒者 5 名であり、新卒者の割合が約 18.5%だった。秋選考の合格者の平均年齢は 38.0 歳であった。秋選考合格者のうち、現時点の住所が佐賀県内である方が 9 名、県外の方が 18 名であった。小学校教諭等については秋選考の最終倍率は 2.0 倍であり、夏選考での結果も含めた最終倍率は 1.2 倍になる。秋選考については、昨年度よりも受験者数は減少したものの、一定程度の成果はあったと思う。

【主な質問等】

(飯盛(清)委員)

他の都道府県では、1 回目の採用試験で不合格だった方を受験させるのはどうかという意見も出ていると聞いているが、1 回目不合格だった方が秋選考で合格された方はいるのか。

(岡教職員課長)

いらっしゃる。

- ⑥ 原岡学校教育課長は、令和 5 年度の佐賀県高等学校総合文化祭の結果について、次のとおり報告した。

(原岡学校教育課長)

資料 6-2 をご覧いただきたい。16 の専門部のうち 12 専門部は、個別に最優秀賞等を記載しているが、この生徒たちや作品が来年度岐阜県で開催される全国高総文祭出場することになる。その他、音楽の合唱・吹奏楽は毎年合同チームを組んでおり、合同合唱団・合同吹奏楽団として来年度岐阜総文祭に参加する。伝統芸能、吟詠剣詩舞部門は例年全国総文祭に参加しており、別途選考を行い、生徒を派遣することになる。来年 7 月 31 日から岐阜県で全国総文祭が開催される。SAGA インターハイの開催と重なっている時期であるが、全国の高校生の姿を見ていただくのも良いかと思う。

- ⑦ 江口保健体育課長は、第 103 回全国高等学校ラグビーフットボール大会について、次のとおり報告した。

(江口保健体育課長)

資料 3-1 をご覧いただきたい。第 103 回全国高等学校ラグビーフットボール大会には、12 月 27 日から 1 月 7 日までの 11 日間、東大阪市の花園ラグビー場において開催される。本県代表は佐賀工業高校であり、42 年連続 52 回目の出場である。A シードである佐賀工業は 2 回戦からの登場である。対戦相手は青森山田高校と高鍋高校の勝者である。今回佐賀工業高校は、大会連覇を狙う東福岡、春の選抜大会で優勝した桐蔭学園とともに、21 年ぶりの A シード校に選ばれている。A シード校 3 校、B シード校 10 校となっている。A シード校については、シード校の中でも特に力が強いとみられている学校であり、3 回戦までは他のシード校とは対戦しないような組み合わせとなっている。昨年度は準々決勝で東福岡に 24 対 18 で敗退し、ベスト 8 であった。

⑧ 内田教育総務課長は、次回定例教育委員会について、次のとおり報告した。

(内田教育総務課長)

次回定例教育委員会は、1月31日(水曜日)10時00分から開催する予定として
いる。委員の出席をお願いしたい。

(5) 議事

教育長は非公開を宣言した。

【付第37号議案】

佐賀県いじめ問題対策委員会への諮問について

このことについて、議案書により池田生徒支援室長が説明し、委員会は協議の結果、
議案のとおり決定した。

【付第38号議案】

佐賀県いじめ問題対策委員会委員の任命について

このことについて、議案書により池田生徒支援室長が説明し、委員会は協議の結果、
議案のとおり決定した。

(6) 事務局報告(非公開)

① 池田生徒支援室長は、県立学校におけるいじめの重大事態の発生について、資料に
基づいて報告した。

(7) 閉会 14時58分

令和6年1月定例教育委員会資料

(令和6年1月31日)

報告事項

【公 開】

佐賀県教育委員会

令和5年11月定例県議会における主な質問事項

会期：令和5年11月30日（木） ～ 12月21日（木） <22日間>

【教育委員会関係】

(一般質問)

- 1 教員の時間外労働と部活動に対する関わり方について
- 2 教育行政について
- 3 県立高校の校舎制について
- 4 外部機関と連携した理系人材の育成について
- 5 不登校対策について

(高等教育機関問題対策等特別委員会)

- 1 県立大学について

(文教厚生常任委員会)

- 1 教員の確保について
- 2 学校における性の多様性への対応について
- 3 特別支援学校の整備について

第31回全国中学校駅伝大会（結果）について

- 期 日 令和5年12月17日（日）
- 会 場 男子：滋賀県希望が丘文化公園 スポーツゾーン芝生ランド
女子：滋賀県希望が丘文化公園 スポーツゾーン芝生ランド
- 出 場 校 男子 多久市立東原摩舎中央校（6年ぶり3回目出場）
女子 多久市立東原摩舎中央校（2年連続3回目出場）
- 結 果 男子 多久市立東原摩舎中央校 23位（1時間00分47秒）
女子 多久市立東原摩舎中央校 11位（44分08秒）
R4 11位（44分20秒）

<男 子>

区間	距離(km)	選手氏名 (学年)	区 間 記 録		累 計 記 録	
			順位	記 録	順位	記 録
1区	3	岸川 壯 (3)	5	9分25秒	5	9分25秒
2区	3	田代常太郎 (2)	21	9分51秒	9	19分16秒
3区	3	梶原 歩真 (3)	21	10分07秒	14	29分23秒
4区	3	緒方 翔大 (2)	37	10分30秒	20	39分53秒
5区	3	山本 優兔 (2)	31	10分36秒	25	50分29秒
6区	3	馬場 奏汰 (3)	25	10分18秒	23	1時間00分47秒

<女 子>

区間	距離(km)	選手氏名 (学年)	区 間 記 録		累 計 記 録	
			順位	記 録	順位	記 録
1区	3	緒方みのり (2)	27	11分03秒	27	11分03秒
2区	2	光岡 琴奈 (3)	2	6分58秒	12	18分01秒
3区	2	徳永 結芽 (3)	6	7分25秒	9	25分26秒
4区	2	古賀 友萌 (2)	8	7分34秒	7	33分00秒
5区	3	土橋 彩乃 (3)	17	11分08秒	11	44分08秒

男子第74回、女子第35回全国高等学校駅伝競走大会（結果）について

- 期 日 令和5年12月24日（日）
- 会 場 男子：たけびしスタジアム京都付設駅伝コース（男子全国高校駅伝コース）
女子：たけびしスタジアム京都付設駅伝コース（女子全国高校駅伝コース）
- 出 場 校 男子 佐賀県立鳥栖工業高等学校（14年連続48回目出場）
女子 佐賀清和高等学校（5年ぶり7回目出場）
- 結 果 男子 佐賀県立鳥栖工業高等学校 19位（2時間07分01秒）
R4 17位（2時間06分32秒）
女子 佐賀清和高等学校 45位（1時間14分22秒）

<男子>

区間	距離(km)	選手氏名(学年)	区間記録		累計記録	
			順位	記録	順位	記録
1区	10	岩佐 太陽(2)	18	29分54秒	18	29分54秒
2区	3	大安 栄嗣(3)	21	8分38秒	20	38分32秒
3区	8.1075	今村 仁(1)	13	24分21秒	17	1時間02分53秒
4区	8.0875	牛嶋 勇斗(2)	24	24分41秒	18	1時間27分34秒
5区	3	山崎 亮汰(2)	17	8分53秒	19	1時間36分27秒
6区	5	小川 佳吾(3)	33	15分32秒	19	1時間51分59秒
7区	5	太田宗一郎(3)	20	15分02秒	19	2時間07分01秒

<女子>

区間	距離(km)	選手氏名(学年)	区間記録		累計記録	
			順位	記録	順位	記録
1区	6	古澤 由奈(2)	47	21分16秒	47	21分16秒
2区	4.0975	弓山由依乃(2)	45	14分11秒	47	35分27秒
3区	3	塚本 海碧(3)	40	10分34秒	45	46分01秒
4区	3	坂口 結音(2)	49	10分32秒	44	56分33秒
5区	5	内野 彩愛(1)	49	17分49秒	45	1時間14分22秒

第103回全国高等学校ラグビーフットボール大会の結果について

- 期 間 令和5年12月27日（水）～令和6年1月7日（日）
- 会 場 東大阪市花園ラグビー場
- 参加校 51校
- 出場校 佐賀工業高等学校（42年連続52回目の出場）
- 成 績 第3位
 - ・ 2回戦 12月30日（土） 対 高鍋高校（宮崎） 52－7
 - ・ 3回戦 1月 1日（月） 対 目黒学院高校（東京） 45－14
 - ・ 4回戦 1月 3日（水） 対 中部大春日丘高校（愛知） 31－16
 - ・ 準決勝 1月 5日（金） 対 東福岡高校（福岡） 28－50

近年の成績

年度	回	成績
平成9年度	第77回	ベスト8
平成10年度	第78回	ベスト8
平成11年度	第79回	3位
平成12年度	第80回	2位
平成13年度	第81回	ベスト8
平成14年度	第82回	ベスト8
平成15年度	第83回	ベスト8
平成16年度	第84回	ベスト8
平成17年度	第85回	ベスト16
平成18年度	第86回	2回戦敗退
平成19年度	第87回	ベスト8
平成20年度	第88回	ベスト8
平成21年度	第89回	ベスト16

年度	回	成績
平成22年度	第90回	2回戦敗退
平成23年度	第91回	ベスト8
平成24年度	第92回	ベスト16
平成25年度	第93回	ベスト16
平成26年度	第94回	ベスト16
平成27年度	第95回	ベスト16
平成28年度	第96回	2回戦敗退
平成29年度	第97回	ベスト16
平成30年度	第98回	2回戦敗退
令和元年度	第99回	ベスト16
令和2年度	第100回	2回戦敗退
令和3年度	第101回	ベスト8
令和4年度	第102回	ベスト8